

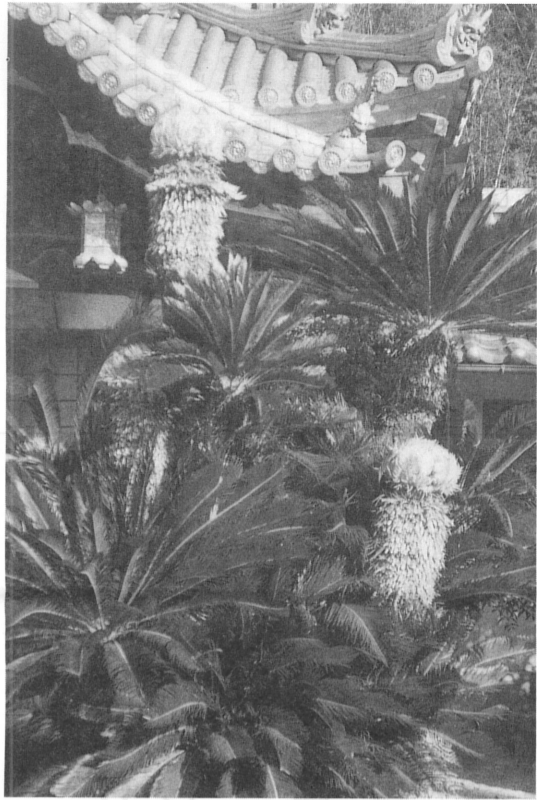
朝日寺だより

新年を迎えて

住職 若松隆英



檀信徒の皆様明けましておめでとうございます。いいお正月をお迎えの事と存じます。どんな一年の経つのが早くなる気がします。ある本によれば毎年繰り返しの事が多くなり、新しいものに触れて感動する事が少なくなる為だそうです。今年も情性でやっつけている様な事の中にも新鮮なものを見つめる様、工夫して充実した張り合いのある一年にしたいものです。昨年からの皆様方には多大なご負担をお願いして本堂等修復五年計画がスタートしました。総代の方々のご努力や檀信徒の皆様のご協力で順調に進む見通しで

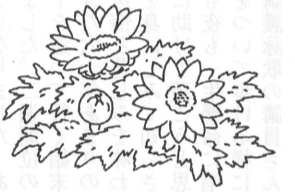


暑さ(?)で実のついたソテツ

ございます。今年中には本堂修復の具体的なスケジュールも決まる事と思えます。皆様方のご協力に感謝申し上げます。それにしても昨年の夏の暑かった事、雨の降らなかった事、水不足は深刻でした。三谷の池の水も殆ど無くなりわずかに残った溜に集まった魚をたくさん白鷺がやって来てついばんでいました。農家の方は大変な苦労があったのではないかと思います。幸いにしてこの地域では水道が止まる事はなかったですが、中年以上の方は昔、井戸から風呂水等を汲み上げた体験を思い起こされたのではないのでしょうか。今は全てが便利になりました。

水も蛇口の栓ひとつひねれば有る水が溢れ出ます。井戸水を使っていた頃比べると家庭の水の使用量は遙かに増えていると思えます。必要以上の水を使っているも我々は慣れてしまつてそんな事に気が付く事もなく、かえって水の大切さ有難さを忘れてしまつていく様な気がしています。どこまで生活が良くなつても欲には足りませんが、不平不満ばかり持ちがちですが、満足感を持って感謝しながら

英会 松代 隆印
若松 奥山 隆印
印刷者 奥山 隆印



生活したいものです。

お大師さまのお言葉に「森羅万象、総て暖く吾れを迎え、尽く修養の種ならざるはない」(意訳) というのがあります。自然は我々に色々な警鐘をならしてくれています。心を澄ませて自然を有りのままに見詰めて行きたいと思えます。今年も猪年、いのししの様に元気で前進したいものです。でも猪突盲進という言葉もみましよう。

年頭に あたつて

総代長 島岡 篤

明けましてお目出とうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素お寺の事につきましては何かご協力をいただきましてありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

昨年の五月十五日の土砂加持法会と客殿落慶記念行事は天気が悪く困りました。密教婦人部・庄田の老人会の方々、稚児の皆さんのご協力を得てにぎやかに終ることが出来ました。ありがとうございます。

檀家の皆様には引き続き本堂及附属建物の修復寄附金と大変なご無理をお願い申し上げます。檀家各位にはご理解をいただきまして、当初考えておりました計画を実行出来る見通しがたちました。五年計画でございますので宜しくお願ひ申し上げます。

平成七年度の計画ですが三月中旬一泊二日が高野山参りを、五月中旬一日旅行十月初旬四国巡りをと考えております。

高野山参りは四年ぶりのお参りですが、十月の四国巡りは第一回でございます。高野山から始められたらよいのではな

いかと思えます。多数のご参加をお願いします。私共総代では本堂の修復及附属建物の改築について細かく計画設計等具体的に考えております。総代会といたしましても忙しくなると思いますが、全員懸命な努力をする覚悟でございます。どうぞ今後共ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが皆様のご健康とご多幸を祈念いたしました。ご挨拶と致します。

御挨拶

密教婦人会々長 胤草 小夜子

新年明けましておめでとうございます。平成七年の新春を御家族お揃いで迎えることになってまいりました。昨年は七年事に行われます土砂加持法会、又、客殿の修理、落慶法会が同時に、盛大に行われましては総代長さんを始め、各地区の総代さん、旧密教婦人部の会長さん、役員さんの御苦勞は、大変なことだったと思えます。新しく葺きかえられた屋根は、お寺にお参りする度に檀家の皆様のお力の大きさと感動致し、菩提寺が立派になった優姿に唯々有難い一念で一杯でございます。又、これから先、何百年も朽ちることなく続くことでしょう。

昨年は、各地で何十年振りとも言われた夏の異常の猛暑と水不足に見舞われま

したが、当地区ではお陰様で水不足もあまりなく夏を乗り越えることが出来ました。老住職様が度々申されておられますこと「朝日寺は朝日寺龍生院と言われ様に龍の卵をお祭りしてあるので水にはとても関係があり、昔から雨乞をする時には、本堂の東にある龍神様に御祈念をすれば必ず雨が降る。今年も二回したら二回共、十分とは言えないが雨が降り草木は生き／＼した」と言われていたが、私も子供の頃からその話はよくお聞きしたように記憶しております。何百年も続いたお加護のたまものでござい

ましよう。終りに、私事でございますが、去る八月の始め、新役員会におきまして、はからずも、会長と言ふ大役をお受けし歴代の立派な会長さんの後を引き継がれて行くのだからと大変心配して居ります。微力ながら私なりに、一生懸命御奉仕させて頂こうと思つて居りますので、どうか皆様の御支援、御協力をお願い致します。新年の御挨拶とさせていただきます。 合掌

随想

前邑久町長 木下友次

「心無罣礙」これは古武弥四郎先生がお亡くなりになる二年前、即ち昭和四十二年先生八十七歳の時、中島先生を通じて特別にお願いして書いていただいたものです。爾來掛軸にして床の間にかけ朝夕これに對して私の心の拠り処としております。

この言葉は申すまでもなく般若心経の「菩提薩埵の般若波羅密多に依るが故に、心に罣礙無し。罣礙無きが故に恐怖あることなし。一切の顛倒夢想を遠離して究竟涅槃す」という一節の中の語句です。かつて私が二十才の足かけ十年間療

な苦惱から逃れようとして一番深く親しんだのがこの般若心経でした。「心無罣礙」心に罣礙なき状態、こたわりも、さわりも無い心境、換言すればそれは「安心立命」の境地とも言えましょうか。凡人の身は到底そのような悟りの域には到りませんが、それでも繰り返して繰り返して読誦することによって、将来の不安、病

氣に對する苦痛、死を想う恐怖などを幾らかでも軽くすることができたのではないかと思います。心にわがたかまりを持つまい、常に虚心なれと事ある時に頭に浮んで心を静めてくれました。それから三十年、日々の公務において、また家庭生活のうえで、このお経の語句は私の心の拠り処として深く刻み込まれました。私の部屋には、これも古武博士の「内省不疚何憂何懼」とお書きになった色紙を置いてあります。前の心経の言葉と相通するものを感じま

す。後日、宝塚のお宅へ博士をお見舞して書のお礼を申し上げます。先生は「私は心経をよく知らないで、始めは間違えてしまった」と若輩の私に向つて淡々と仰つたことが「心無罣礙」の軸に對することにも懐しく思い出されます。(以上「落葉集」より抽出)

四国霊場巡りに 参加して

庄田 松本治子



心地よい秋のひととき、十一・十二日の一泊二日香川県十四ヶ寺霊場巡りが行われました。

十一日早朝昨夜からの雨も何とか止んで、朝日寺若松隆英夫妻を先頭に参加者四名白装束に身を固め元氣一ぱいに出発、ブルーライン・瀬戸大橋を渡り坂出インターより善通寺へと八時四十五分に最初のお寺七番札所曼荼羅寺へ到着。今にも雨が降りそうな雲ゆきではあるが、日頃の信心のお蔭で降りませぬ様にとガイドさんの冗談も出る程和やかなムードで参拝。般若心経の唱和に心も清々しくなる。次はだんだら坂を五百米あまり登りつめた先の七三番出釈迦寺、このお寺は弘法大師が釈迦如来に命を救われ「一生成仏」の旨を言われた由来があるとか。甲山寺、金倉寺と道がすいていて順調にお参りが出来る。十時には七五番善通寺に到着。堀をめぐらした広い境内が目に入る。東院は三ヘクタールの境内に五重塔金堂など、中門までの両側に塔中寺院、土産物を売る店ありでその広さに迷子になりそう。お遍路さんの数もまばらな朝のひととき保育園の幼児が先生に連れられて鳩と共に遊ぶ姿、読経の声、線香の匂に自然と雑念もすれ巡拝に参加出来る